

平成25年7月17日

平成25年度病害虫発生予報第4号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
早期水稲	いもち病(穂いもち) 紋枯病 穂吸汁性カメムシ類	並 やや多	並 並 やや多
普通期水稲	いもち病(葉いもち) 紋枯病 縞葉枯病 セジロウンカ トビイロウンカ(防除情報第6号) コブノメイガ(防除情報第6号)	並 並 並 やや少 やや多 並	並 並 並 やや少 やや多 並
大豆	ハスモンヨトウ		やや多
いちご (育苗床)	うどんこ病 炭疽病(<i>Glomerella cingulata</i>) 輪斑病 ハダニ類	やや少 並 やや多 やや多	やや少 並 やや多 やや多
アスパラガス	アザミウマ類	やや少	やや少
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ	少 並 並 やや少	少 並 並 並
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシヒメシンクイ	並 やや多 並	並 やや多 やや多
なし	ナシヒメシンクイ	並	やや多
ぶどう	べと病	並	並
果樹共通	果樹カメムシ類	並	並
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	並 並 やや多 やや多 並 並 並	並 並 やや多 やや多 並 並 やや多

【発生予報】 本文の()内は平年値

早期水稲

1. いもち病(穂いもち)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(41筆)の結果、葉いもちの発病株率は4.1%(0.7%)、発生圃場率は36.6%(12.1%)であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、葉いもちの発生を認めなかった(発生を認めない)。

ウ 出穂期前後にあたる7月上旬の降水量は平年より少なかった。また、向こう1か月の降水量は少ない見込みである。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(41筆)の結果、発病株率は0.3%(0.3%)、発生圃場率は14.6%(9.6%)であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は10.0%(16.6%)であった。

3. 穂吸汁性カメムシ類

平成25年7月3日付け病害虫発生予察防除情報第5号を継続。

なお、その後の発生状況については以下のとおりである。

(1) 発生状況

7月上旬のイネ科雑草におけるすくい取り調査(28地点)の結果、捕虫網による10回すくい取りあたり虫数は21.1頭(11.2頭)であった(表)。

表 イネ科雑草におけるすくい取り調査結果

種類別	10回すくい取り当たり虫数						発生地点率	
	H21	H22	H23	H24	平年	H25	平年	H25
ホソハリカメムシ	0.1	0.1	0.5	0.7	0.4	0.9	57.5	75.0
クモヘリカメムシ	0.4	0.1	0.2	0.4	0.1	0.8	10.4	39.3
シラホシカメムシ	0.2	0.1	0.1	0.4	0.2	0.6	30.9	57.1
アカスジカスミカメ	5.2	2.6	4.5	9.0	9.7	18.4	74.9	92.9
ミナミアオカメムシ	0.1	0.0	0	0	0.0	0.0	3.6	3.6
計	5.9	2.8	5.3	9.8	11.2	21.1		

普通期水稲

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(90筆)の結果、発病株率は0.2%(0.1%)、発生圃場率

は2.2% (1.8%)であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

ウ 7月以降、葉いもちの感染に好適な条件を満たした日が7月2日に島原市で、7月1日に壱岐市石田で、7月1、4日に壱岐市芦辺で認められた(葉いもち感染好適条件判定モデルによる。詳細はホームページを参照)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 余り苗、補植苗は発病の伝染源となるので早めに処分する。

イ 葉いもちの急性型病斑が見られた場合は早急に防除を行う。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(90筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率0.6%)。

イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(90筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率1.8%)。

イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

ウ 7月9日に長崎市船石(6月5日植え圃場)で発生を認めた。

エ 7月上旬の巡回調査(90筆)の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.07頭(0.06頭)、発生圃場率は33.3%(17.3%)とやや多かった。

オ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.4頭(0.0頭)、寄生株率は26.0%(1.0%)とやや多かった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病株は伝染源となるので見つけ次第抜き取る。

イ ヒメトビウンカの圃場での発生に注意する。

4. セジロウンカ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(90筆)の結果、株当たり虫数は0.3頭(1.1頭)発生圃場率は53.3%(71.2%)であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場(無防除)調査の結果、株当たり虫数は0.7頭(3.1頭)、寄生株率は48.0%(68.3%)であった。

ウ 7月以降の飛来量は平年より少ない。

5. トビイロウンカ

平成25年7月17日付け病害虫発生予察防除情報第6号による

6. コブノメイガ

平成25年7月17日付け病害虫発生予察防除情報第6号による

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は平年よりやや多い(図)。

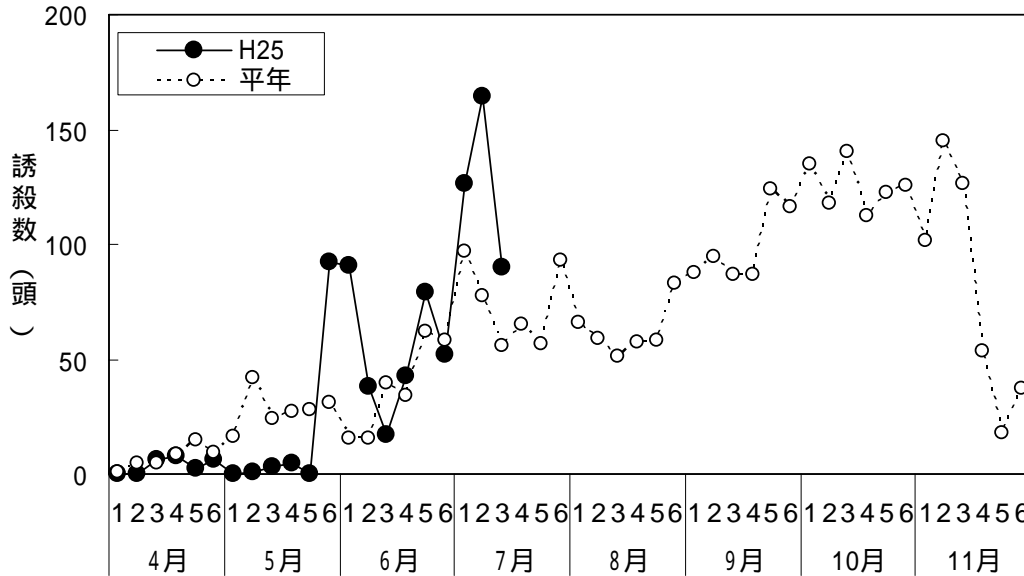


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越) (月・半旬)
平年:H15~H24年の平均値(最大・最小値除く)

イ 向こう1か月の気温は高く、降水量は少ない見込みであり本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。

イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢幼虫期に薬剤散布する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は1.5%(3.3%)、発生圃場率は27.3%(34.2%)であった。

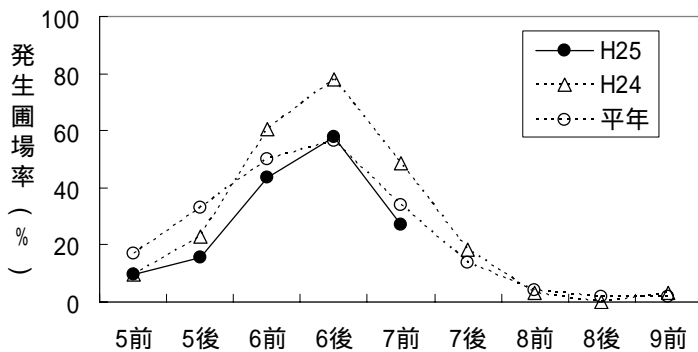


図 うどんこ病 発生圃場率の推移

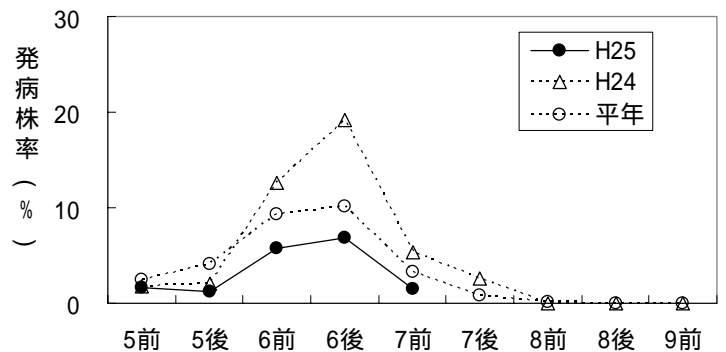


図 うどんこ病 発病株率の推移

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率2.3%)。

イ 病害虫防除員からの報告によると並~少の発生である。

ウ 向こう1ヶ月の気温は平年より高い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗床が多湿にならないように、連続した長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実に行う。また、除草を徹底するなど、環境整備に努める。

イ 高設育苗、雨よけ育苗および全面マルチを行い、降雨等による地面からの病原菌の跳ね上がりを防止する。

ウ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は育苗せずに処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。

エ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に強風雨、台風などの前後や下葉除去など株を傷つけるような作業後は重点的に行う。

3. 輪斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は8.7%(4.6%)、発生圃場率は51.5%(35.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病葉は伝染源となるため、栽培上支障のない範囲で除去し、除去した罹病葉は圃場内に放置せず適切に処分する。

イ 肥料不足は発病を助長するので留意する。

ウ 過湿条件は発病を助長するので密植を避け通風を良くする。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率は1.8%(0.9%)、発生圃場率は18.2%(10.2%)であった。

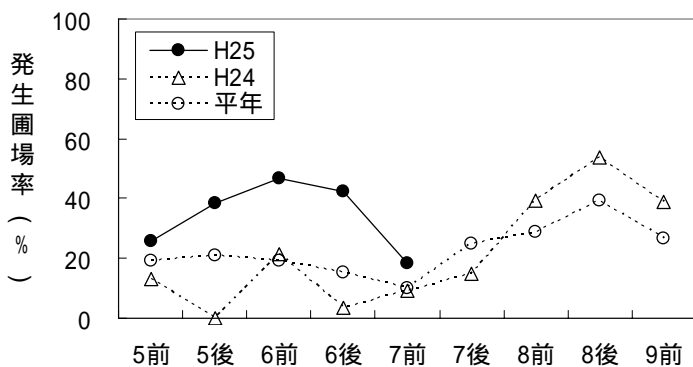


図 ハダニ類 発生圃場率の推移

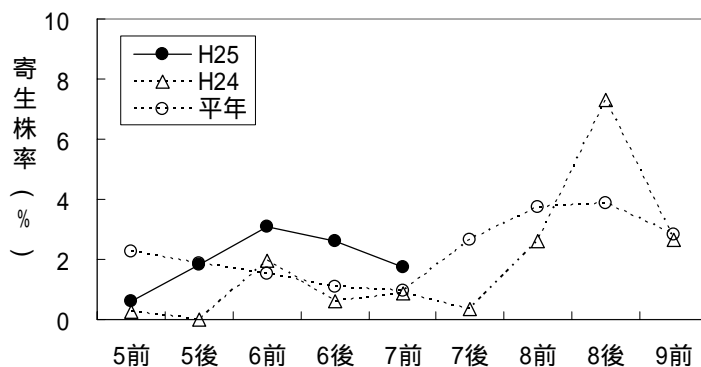


図 ハダニ類 寄生株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉裏に多く寄生するので、薬剤散布は薬液が葉裏に十分付着するように丁寧に散布する。

イ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。

アスパラガス

1. アザミウマ類

- (1) 予報内容
発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(12筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は4.6頭(過去6カ年平均12.6頭)、発生圃場率は58.3%(過去6カ年平均79.6%)であった。

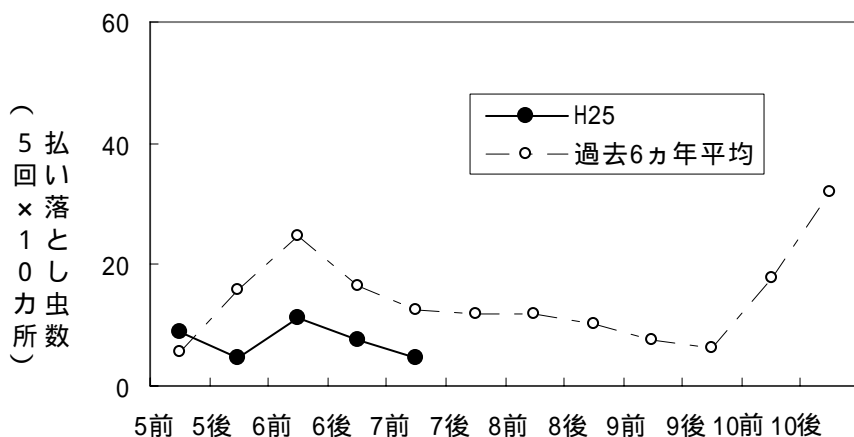


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

かんきつ

1. かいよう病

- (1) 予報内容
発生程度 少
- (2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.6%)、葉の発生圃場率は3.0%(26.3%)であった。果実での発生は認めなかった(発病果率0.1%、発生圃場率6.8%)。

2. 黒点病

- (1) 予報内容
発生程度 並
- (2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病果率は1.7%(1.1%)、発生圃場率は18.2%(14.8%)であった。

3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容
発生程度 並
- (2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生葉率は9.1%(9.0%)、発生圃場率は

42.4% (45.4%)であった。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(33筆)の結果、果梗部の被害果率は0.3% (0.8%)、発生圃場率は9.1% (12.2%)であった。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年よりやや少なく推移している(図)。

ウ 向こう1ヶ月間の気温は高く降水量は少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

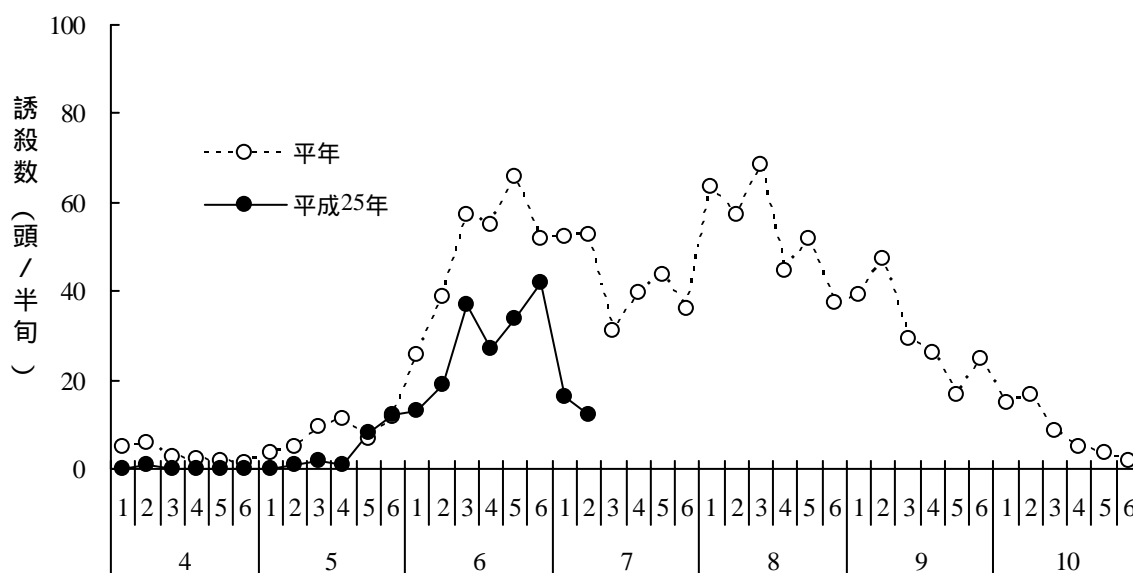


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況
(諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

(月・半月)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した発生ピーク予測日を下表に示した。

イ 茶、かき、ぶどう及びビヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸	長崎 (平年値)
第4世代	7/15	7/17	7/25	7/16	7/29	7/20
" (前年)	7/20	7/20	7/29	7/19	8/2	-
第5世代	8/1	8/3	8/12	8/2	8/16	8/5
" (前年)	8/5	8/5	8/15	8/6	8/18	-
標高(m)	27	4	43	10	58	27

注1:発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2013年7月15日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2:同一地区内でも、山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3:表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い圃場では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は3.8%(1.4%)、発生圃場率は80.0%(43.8%)であった。

2. 灰斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は58.3%(31.3%)、発生圃場率は100%(97.5%)であった。

3. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(10筆)の結果、寄生枝葉率は0.2%(0.0%)、発生圃場率は10.0%(2.0%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、概ね平年並で推移している(図)。

ウ 向こう1ヶ月間の気温は高く降水量は少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

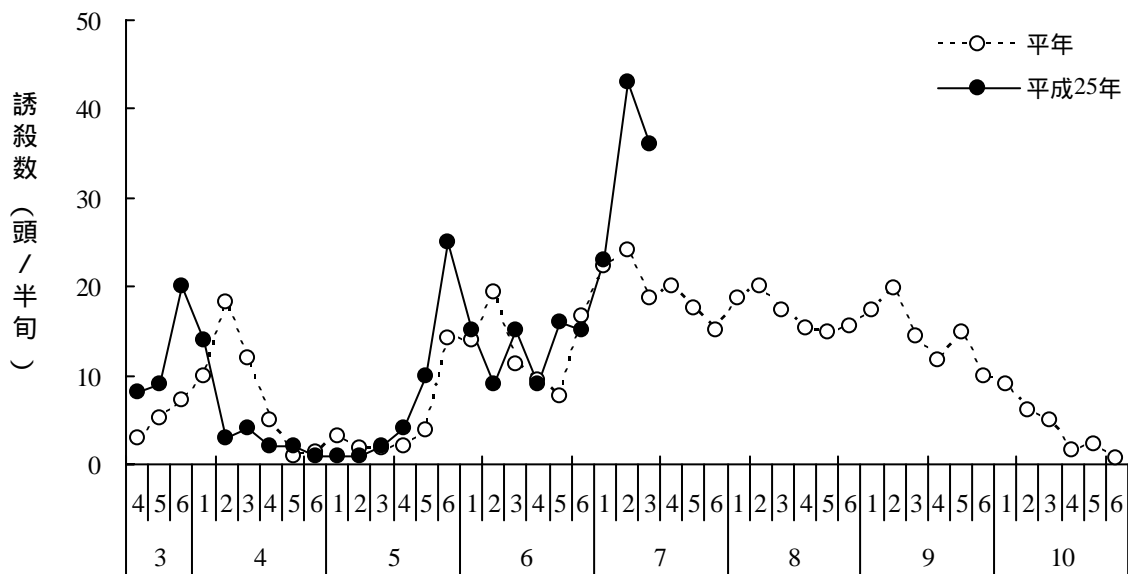


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況 (諫早市小船越町:フェロモントラップ) (月・半旬)

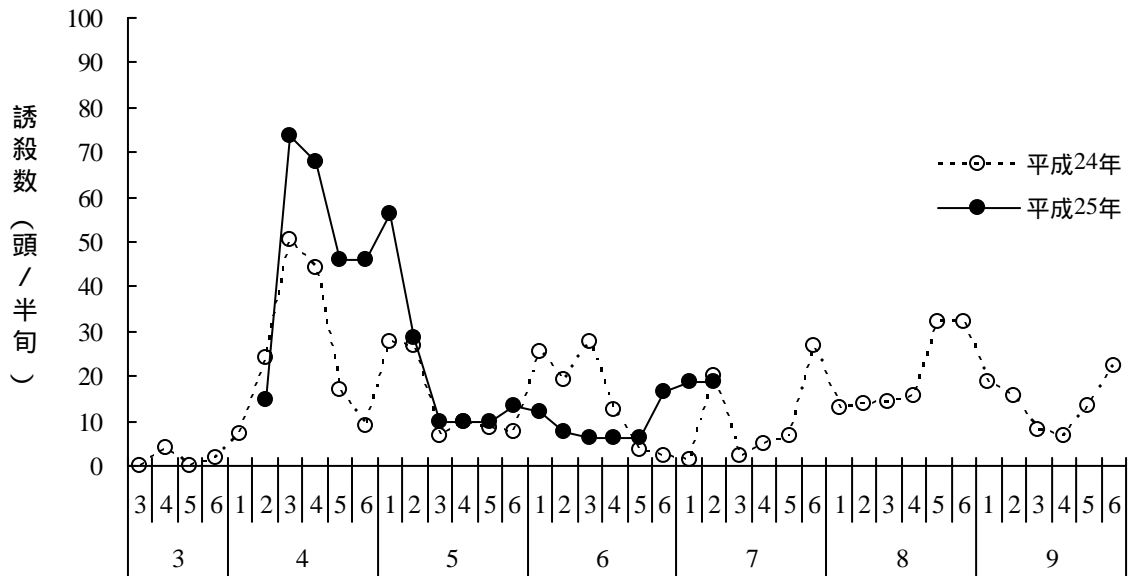


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況
(長崎市茂木・フェロモントラップ) (月・半旬)

なし

- 1. ナシヒメシンクイ
 - (1) 予報内容
 - 発生程度 やや多
 - (2) 予報の根拠
 - びわの項参照。

ぶどう

- 1. ベと病
 - (1) 予報内容
 - 発生程度 並
 - (2) 予報の根拠
 - 7月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.5%(2.1%)、発生圃場率は33.3%(24.0%)であった。

果樹共通

- 1. カメムシ類
 - (1) 予報内容
 - 発生程度 並
 - (2) 予報の根拠
 - ア フェロモントラップの誘殺量は、諫早市小船越町及び西海市西彼町で平年並に、諫早市多良見町及び南島原市有家町では平年より少なく推移している(図)。
 - イ 7月上旬のかんきつ、びわ及びなしにおける巡回調査の結果、圃場への飛来を認めなかった。

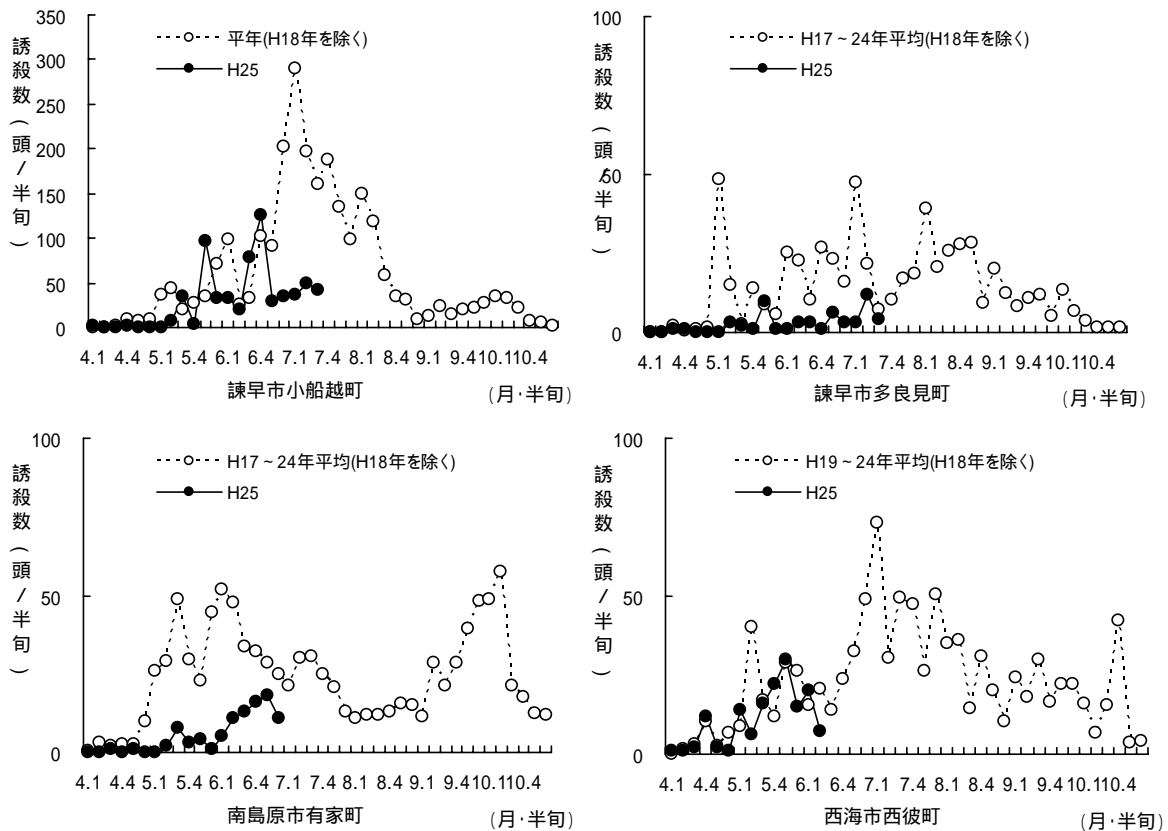


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり発病葉数は1.5枚(3.8枚)、発生圃場率は70.0%(53.8%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は9.4頭(10.6頭)、発生圃場率は100%(76.9%)であった。

3. チャノココクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は2.1枚(0.2枚)、発生圃場率は35.0%(11.9%)で、一部多発圃場が見られた。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年並で推移している(図)。

(3) 防除上注意すべき事項

発蛾最盛期から7~10日後に薬剤散布すると効果が高い。

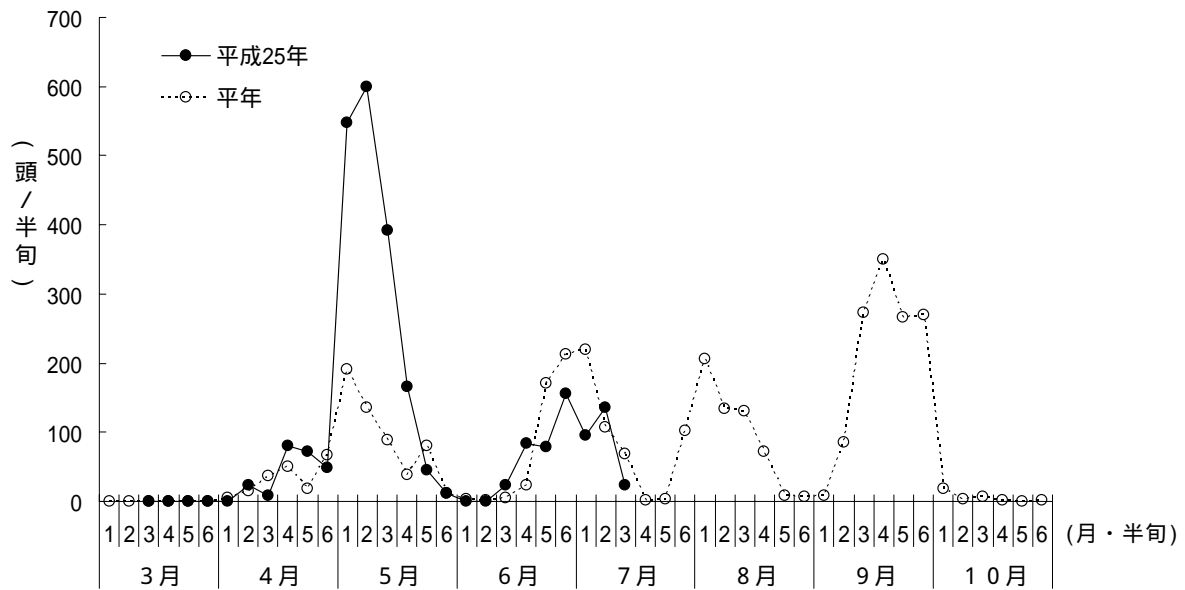


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査（20筆）の結果、1㎡当たり巻葉数は0.9枚（0.1枚）、発生圃場率は20.0%（6.3%）で、一部多発圃場が見られた。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は平年並で推移している（図）。

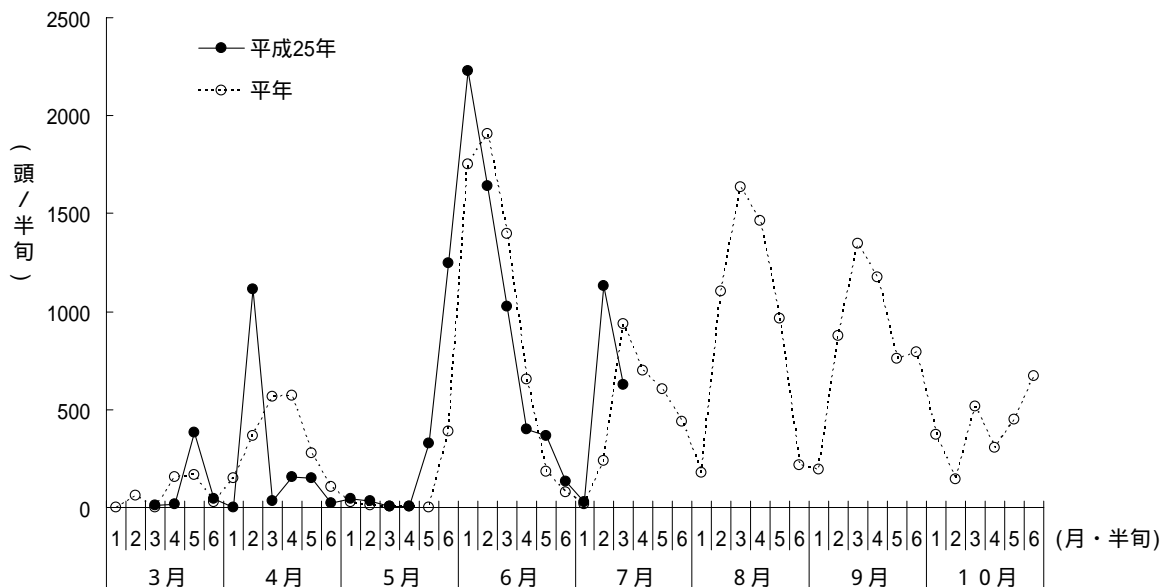


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査（20筆）の結果、寄生葉率は0.2%（0.2%）、発生圃場率は5.0%（8.8%）であった。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は1.8頭(2.0頭)、発生圃場率は60.0%(53.8%)であった。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は8.3%(5.5%)、発生圃場率は30.0%(38.8%)で、一部多発圃場が見られた。

イ 向こう1ヶ月間の気温は高く降水量は少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 1回脱皮してロウ質のカイガラを作りはじめると薬剤の効果が低下するので、下表のふ化盛期予測日を中心に防除する。なお、独自にふ化盛期日を現地調査し防除適期を判断している地域ではその判断を優先する。

イ 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。

表 「有効積算温度則による防除適期予測法」によるクワシロカイガラムシのふ化盛期予測日(第2世代)

地点名	標高	平成25年	平成24年	平成23年	平成22年
東彼杵町太の原	360m	7/21	7/25	7/27	7/27
五島市上大津	77m	7/13	7/17	7/19	7/16

注1：方法は「有効積算温度則による防除適期予測法(農林技術開発センター茶業研究室)」により、7月11日時点で予測した。

注2：使用する気温データは、農林技術開発センター茶業研究室(東彼杵町)の測定値及びアメダスデータ(五島市)を使用し、予測日以降の気温データは平成24年測定値を使用した。

なお、第1世代のふ化盛期を、東彼杵町太の原：5月23日、五島市上大津：5月15日とした。

注3：同一地区内でも標高や土地条件でふ化盛期日が異なるので注意する。

【参考】

気象

(平成25年7月12日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

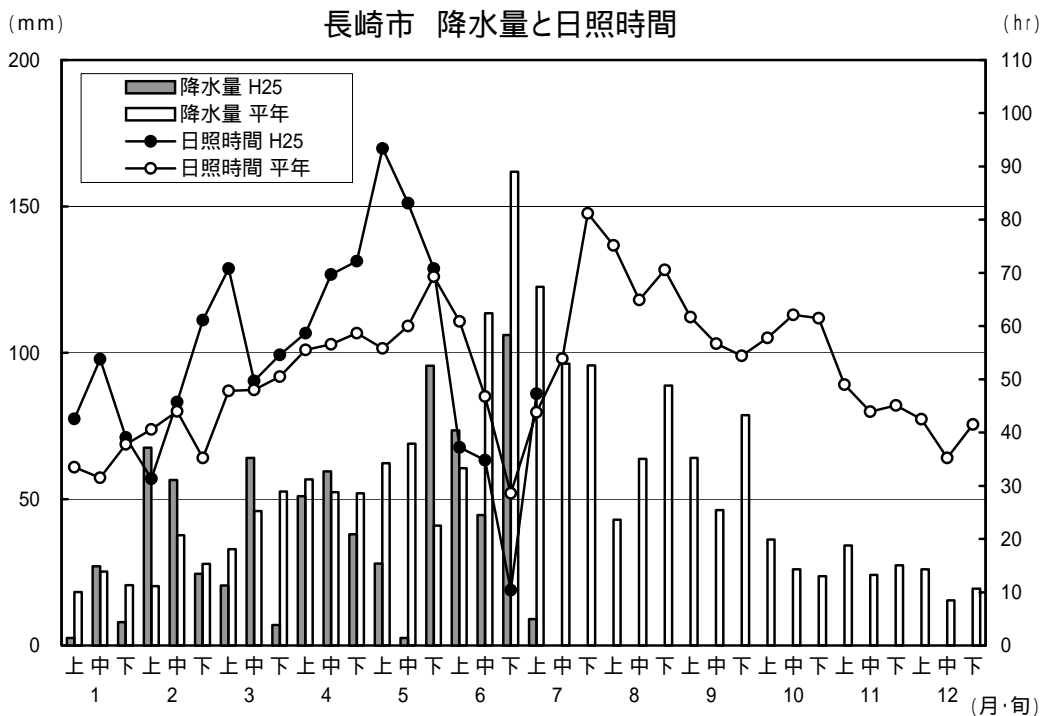
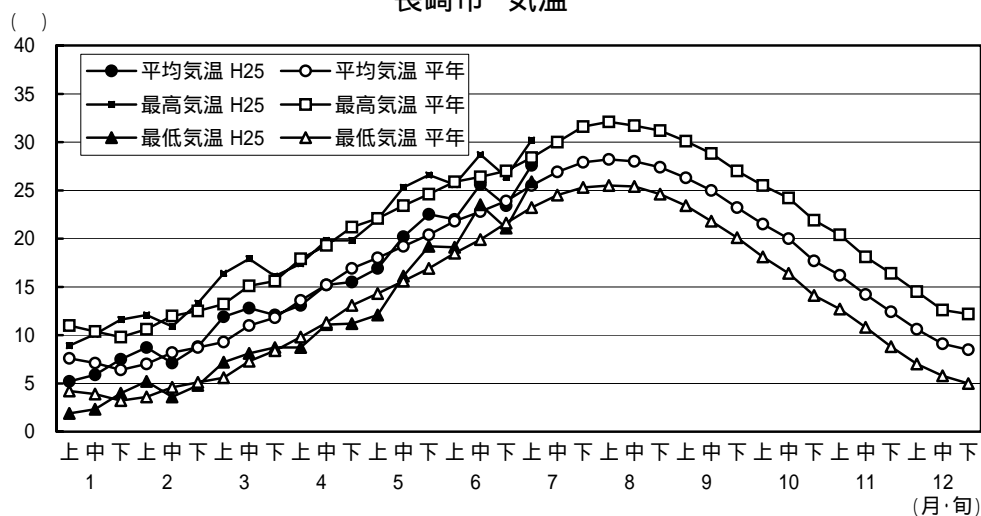
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	40	50
降水量	40	30	30
日照時間	30	30	40

予報対象地域：九州北部地域

平成25年の気象経過 (長崎海洋気象台)

長崎市 気温



6月1日から8月31日までの3ヶ月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027